
2026 年 9 月 2 日

長野高専後援会

発行責任者：支部長 小林 雅樹

編集：編集委員会

長野支部だより

令和8年度 長野支部総会開催



7月18日（土）午後2時よりホテル信濃路において、46名の会員の参加を得て令和8年度長野支部総会が開催されました。

総会後は同会場において懇親会が開催され、先生方3名を含む31名が参加し楽しいひと時を共にしました。



学校情報

早瀬伸樹校長先生



みなさんこんにちは。長野高専校長早瀬と申します。本日は長野高専後援会長野支部総会にお招きいただきありがとうございます。また、後援会の皆様には日頃より本校の運営、また教育に多大なるご支援を賜り深く感謝申し上げます。お陰様を持ちまして、クラブ活動や国際交流、またコンテストの参加など様々な活動が活発に行うことが出来ておりま

す。

今年度は特にロボットコンテストの甲信越予選が長野で開催されることになっております。

先日、ロボコン部の学生と話をしましたが、「今のところ順調にきている、長野での大会なので是非いいところを見せたい。」とはりきっていました。9月20日にビッグハットでの開催と

なっておりますので、事前登録していただければ無料で観戦することができますので、是非足を運んでいただければと思います。

また、そのロボットコンテストの大会にあたりまして『長野高専』とかいてあるオリジナルのポロシャツを後援会の方で作っていただきました。ありがとうございます。7月の最初に届きまして、7月4日のオープンキャンパスの際に教職員がそのポロシャツを着ました。一体感をもって中学生や保護者の方々を迎えることができ、非常に良かったと思います。

今日はこの後、教務主事、学生主事の方から学校についての話がありますので、私の方からはそれ以外のことについて簡単にお話ししたいと思います。

長野高専は、全国に51ある国立高専の中の1つで、それを取りまとめているのが「独立行政法人 国立高等専門学校機構」です。今年度4月に高等専門学校機構の理事長が中島理事長に交替いたしました。中島理事長は、2年間高等専門学校機構の理事を務めていますので、高専の教育について深く理解されている方です。4月から全国のいくつかの高専を回られており、7月1日に長野高専にご来校され、施設や授業を見ていただきました。そして、お昼は学生寮で学生と一緒に召し上がっていただきました。今回のご訪問で、長野高専に対して理解を深めていただけたのではないかと感じております。その様子を長野高専のホームページからアクセスできる公式のSNSにも「中島理事長 来たー！」というように学生に上げていますので、是非ご覧いただけたらと思います。

最近、このような機会には「高専というのは世界から高い評価をいただいている」ということとお話しさせていただいています。高校は少子化の影響で統廃合が進み、減ってきています。大学についても、私立大学を中心に削減が進んでいる状況です。一方、高専については教育が高く評価され、エンジニアが不足しているということでこれからさらに増やしていこう、新たに作っていこうという流れになってきています。具体的には、滋賀県立高専というのが令和10年4月に開校することが決まっています。愛知の県立高専や福岡の市立高専、最近では鳥取に農業の高専を作ろうという話もあるようです。

最近驚いたニュースでは、8月9日に長野県知事選があり、現職の阿部知事が公約を出されているのですが、その中に高等専門学校の設立を検討するということが挙げられています。少し

先にはなるかと思いますが長野県にもう1つ高専ができるかもしれません。このような動きの中で、高専が注目され我々国立高等専門学校機構の長野高専の知名度も向上すると思いますが、一方で優秀な志願者の獲得の競争が激しくなるのかなと感じております。

このように高専には追い風が吹いている状況ではありますが、その機会を逃すことなく方向性をしっかりと立てて着実に歩んでまいりたいと思いますので、後援会の皆様には引き続きご支援賜ればと思います。よろしくお願いいたします。

以上、ご挨拶とさせていただきます。

渡辺誠一副校長先生（教務主事）



皆さんこんにちは。教務主事をしております渡辺です。よろしくお願いいたします。私の方からは主に教務の話させていただきます。

本校が「工学科」という形で1学科の体制に改編されてから今年度で5年目を迎え、5年生まで全学年が揃いました。今回は、前期の学校生活の様子を振り返りながら、今後の大切な動きに関連するお話をさせていただきます。

教務関係の主な変更事項について

今年度より、教育効果の向上を目指して教務関係の変更をいくつか行いました。まず、学生が余裕を持って試験に臨めるよう、定期試験の期間を1日延長いたしました。さらに定期試験後に1週間の授業を設けて答案返却や振り返りを行う期間を設けました。また、カリキュラムの見直しとして、1年生の国語に「古典」の授業を1科目追加いたしました。これらが今年度の大きな変更点となります。

学年別の様子

・1年生の様子と系の選択について

1年生につきましては、4月の入学時にガイダンスを行ったほか、特別研修として高専から城山公園まで歩きました。道中、友達と楽しそうに話しながら歩くことをしています。前期の定期試験において、何名かの1年生は「遅刻による受験不可」となるケースがありました。本校のルールとして遅刻者の入室は一切認められませんので、ご家庭においても遅刻をしないようにお声かけをお願いいたします。

前期の授業の一コマである「ZUKUDASEゼミ」では、1年生全員が複数のテーマに分かれて課題に取り組みました（例えば、大きな模造紙に自分たちでメジャーを使い半円を描いて計算をすることで、円周率が 3.141592 となる事を実際に実感を伴いながらの学習）。本校のリベラルアーツ教育院に所属している教員は自身の専門性を活かして独自の授業を展開しています。先生方は板書だけでなく、口頭で説明した内容を試験に出す傾向があるのですが、学生が聞き逃してしまっているのか、記述問題に対する正答率が低かったという話を聞いております。通常の授業の一貫になるのですが、5月のオープンキャンパスでも行われたウェルネス・アウトドアでは、目隠しをした学生を一人の学生が安全な場所に誘導する事で人の事を信頼しながら行動を共にするという事を学んでいただいています。1年生の専門科目では、系の選択へ向けてローテーションで実験等に取り組んでいただきました。年度内に3回希望調査を行うのですが、1回目と2回目の間に3つの系の系長の教員がそれぞれの概要を説明する「系長講話」というものがあり、先日実施いたしました。希望調査の結果はいずれも学生に伝えております。11月中旬に2年生が台湾への研修旅行、3～4年生が企業現場見学で不在となるため、学校には1年生と5年生だけが残ります。この期間に、1年生が5年生の卒業研究を行っている部屋を訪ね、先輩から直接色々な話を聞く事を計画しております。その後に第3回目の進路希望調査を行います。各系の定員は大筋で決めておりますが、その人数（機械ロボティクス：85名、情報エレクトロニクス：85名、都市デザイン：45名）を大幅に超えた場合は、まず学生に希望を変更するか聞きます。それでも人数の調整ができない場合は成績で配属を決めさせていただきます。

・2年生

2年生については、1年生の時は系選択のために熱心に勉強していた学生が、2年生になると中だるみをしてしまい、頑張らなくなってしまうケースが見られます。現在は、台湾への研修旅行に向けて、ホームルームの時間を使って自主的な活動内容の計画などを進めています。授業の様子では、都市デザイン系で「測量実習」が始まっており、暑い中でも校内のポイントを実際に測量し、学校敷地の図面を仕上げるというミッションに汗を流しています。

・3年生

3年生につきましては、4月にクラス替えという新しい環境でのスタートとなりました。長野県内の企業訪問や各種レクリエーションなどを通じ、新しいクラスメイトとの友人関係を広げ、絆を深める良い機会といたしました。

・4年生

4年生は高専生活の中で最も伸びる、いま本当に頑張っている学年です。夏休み中に1週間ないし2週間行われるインターンシップについては、全員の派遣先が無事に決定いたしました。1人で行く場合には日程調整は簡単なのですが、複数人で同じ企業に行く場合は代表の学生が日程調整を行うので、難航した部分があったようです。8月下旬から9月上旬の全国高専体育大会との兼ね合いもあり企業を変更した学生もありました。エンジニアリングデザイン実践の授業では、企業や校内から出されたテーマに1年間かけて取り組んでおり、6月に中間発表も終わりました。また英語の「Expressing Opinions」の授業では、ネイティブの教員が英語で授業を行います。キーワードの書かれたカードを使いながら自ら発言し、英語漬けになることで学生もうまくできるようになってきているという印象です。7月には将来のキャリア教育の一環として、外部講師からテレビ局の番組表から昔と今を比較して社会の教育を考えるという授業も行われました。

- ・5年生

最上級生である5年生は、とにかく今、それぞれの進路（就職・進学）に向けて必死に励んでいる状況です。私の専門授業でも、太陽光発電装置をMウェーブの屋根等、各自で考えた場所に設置した場合に必要な設備を考えるとともに、発電量をシミュレーションする課題を行いました。非常に高い熱量で取り組んでくれました。

前期中間試験の結果と、5年生の進路状況

- ・前期中間試験の結果について

昨年度と比較いたしますと、60点未満の学生が前年度より増加したことが今年度の特徴として挙げられます。その一方で、4年生の半数以上が80点以上という結果となりました。教務主事としての公約であった「定期試験期間の1日延長」が、4年生には余裕が生まれて効果があったが、低学年には十分に活かされなかった可能性があり、残念でなりません。

5年生の進路決定状況について

ここ数年の傾向として、初期の希望は就職4割・進学6割ですが、最終的には例年半々くらいに落ち着きます。6月末時点の状況としては、就職の内定率は8割を超えました。ただし、初夏の伸びがやや緩やかで昨年度と比べると鈍化している印象です。進学に関しては約半数が決定したところです。長岡技術科学大学や豊橋技術科学大学の結果が出揃いました。特に本校から豊橋技術科学大学を推薦・学力試験で挑戦した学生は30名以上おり、心配しております。

事前にいただいたご質問への回答

① 英語の教科書と教材・課題の出し方について

保護者の方より「単語の小テストに向けた日々の課題量が多い」「使用している教科書が進学校向けで厳しすぎるのではないか」というご意見をいただきました。単語の課題量が多い事

と、教科書は進学校でも使われているものである事を確認しました。本校の教育については厳しめかは何とも言えませんが、TOEIC Bridge (2・3年) やTOEIC IP (4年) のスコアは過去3年間で向上してきています。カリキュラムとして無理な内容ではないと考えておりますが、学生が負担感を持たれているようですので、英語科の教員で課題量や教材のバランスについて検討を行っていただいております。

② 4年生のクラス編成 (有利・不利) について

4年生のクラスについて「クラスによって平均点が違うため、成績の有利・不利があるのではないか」という質問をいただきました。情報エレクトロニクス系は元々2クラスに分かれていて、席次もコースごとに分けているため問題ありません。機械ロボティクス系につきましては、クラスごとではなく、80数名で一括して席次を出しております。

今後の予定

今後の予定といたしましては、定期試験のほかに、10月の文化祭にて三者面談を行います。学生本人が不在のケースが見られますが、基本的には三者で出ていただいた方が良いと思っております。8月下旬から9月上旬に調査のお手紙を出させていただきます。

イベント関係では、9月20日に高専ロボコン地区大会が開催されます。さらに、来年度の11月には、全国高等専門学校デザインコンペティションが長野市のホクト文化ホールで開催される予定です。例えば紙で橋を製作してその強度を競うなど、非常に見応えがある大会ですので、機会がございましたらぜひ足をお運びください。以上です。

奥村紀浩副校長先生（学生主事）



学生主事の奥村と申します。

本日は、お招きいただきましてありがとうございます。学生支援委員会は、学生が明るく健康的かつ快適で安全な学生生活を送れるようサポートしております。学生支援委員会では、以下の3つの重点項目を掲げ活動しています。「問題行動の未然防止」「学生会活動への支援」「保護者の皆様と連携」。

問題行動の未然防止では、日常のちょっとした変化に気付き、早めに声をかけ、必要な支援につなげることができるよう意識を高めています。また、各種講演会も開催しており、7月8日に交通安全講習会を実施しました。

学生会活動への支援では、学業だけではなく、部活動やボランティアおよび学校など様々な場面で仲間と協力し、力を発揮しています。クラスマッチ、ボランティア、工嶺祭および部活動についてもサポートしています。

保護者の皆様と連携では、ご家庭での様子やお気づきのことがありましたら先生方にお知らせください。奨学金に関しましては、ホームページに掲載してあります。

今年、学生主事として2年目となりますが、令和7年度の総括として学生会活動、部活動、個人の活動が活発で、長野高専魅力発信プロジェクト、上位の大会への進出、本の出版などがありました。一方でSNSの使い方や公共の場でのマナーで注意を受ける学生がいました。

今年は学生の主体的な活動を支えつつ、公共性や責任のある行動を促す指導を継続的にやりたいと思うところであります。最終的には、すべての学生が「長野高専で学んで良かった」と実感できるような環境を作っていきたいと思いますので、保護者の方々にもご協力をいただければと思います。

新年度 学生生活のふりかえり

4月

入学式、始業式 (4/2)

新入生ガイダンス (4/3)

新入生歓迎会 (4/8)

あいさつ運動 (4/20. 4/23)

学生総会 (4/22)

長野市放課後子ども総合ブランドアドバイザー登録説明会 (4/27)

5月

高校総体 (GW後)

クラスマッチ (5/22)

6月

前期中間達成度試験 (6/1-6/4)

ゼリー流し (6/26)

関東信越地区高専大会

(6月下旬-7月上旬)

7月

オープンキャンパス (7/4)

意見交換会 (7/8)

前期末達成度試験 (7/27-7/31)

8月 (予定)

閉寮 (8/8)

夏季休業 (8/10-9/25)

部・同好会活動

運動部 17

文化部 13

同好会 15

昨年度の新入生は、運動部系に入ることが多かった。特に女子の活動が目立った。

今年度の新入生は、文化系に入ることが多かった。依然として女子が頑張っている。

今年度の学生の活躍

軽音楽部

長野県高等学校軽音楽クラブ合同演奏会東北信大会パワーライブで2バンドがベスト8で県大会出場

囲碁将棋部

第50回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会 長野県大会で優勝し、長野県代表で全国大会出場および高文連全国大会出場

高専大会

卓球部、水泳部、硬式テニス、ソフトテニス、陸上競技部、男子バレー部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部が全国大会出場

高専ロボコン2026

関東甲信越地区大会の運営 (9/20)

ビッグハットにて

奨学金について

奨学金の推薦についても行っている。各種団体から奨学金の募集が来る毎に本校のHPにアップしているのでご確認ください。

交通安全について

昨年度初頭から本校では自転車乗車時は、ヘルメット着用を義務化しています。

2026年4月1日より自転車の交通違反にも青切符が適用となります。

ヘルメットは、道路交通法では努力義務ですが、自転車の脇を自動車が追い越す際にあおられて倒れる危険性があることと、令和6年の自転車乗用中の死者の約5割が頭部を損傷していたこと、自転車乗用中に頭部を負傷した者のうちヘルメットを着用していなかった者の致死率は、ヘルメットを着用していた者の致死率の1.4倍であったことから本校では、ヘルメット着用を義務としました。

最後に

学生の支援にご協力いただきまして改めて深く感謝申し上げます。

学校、ご家庭とで連携して学生を支援していきたいと思いますので、お力添えを今後ともよろしく願いいたします。

質疑応答

Q. 英語の授業のペースが早いのではないか。英語が大変すぎて、積み重ねとなる理数系の科目の復習などに負担となっていないのか。

A. 英語という一般科目が専門科目を圧迫している印象はない。担当教員によってやり方が違う事もあると思うが、英語科の方で検討しているため、何等かの形で回答があると思う。

特別講演（留学生母国紹介）



長野高専で学ぶ留学生3名による講演が行われました。それぞれの母国の文化や地理的特徴をはじめ、本校での学びや地域・学生との交流、そして周囲への感謝の思いが具体的なエピソードとともに語られました。

左から

シャキリンさん（3 IE 1）

ソワンさん（5 IE 2）

ルトゥフィさん（2 AP）

■ シャキリンさん（マレーシア）

シャキリンさんは、まず本校に7カ国15名の留学生が在籍している現状を紹介した上で、母国マレーシアの文化を詳しく解説しました。同国はマレー系・中国系・インド系などが共に暮らす多民族国家であり、それぞれの言語や宗教、食文化が尊重されています。首都クアラルンプールの近代的な都市景観、世界遺産マラッカの歴史的街並み、東南アジア最高峰のキナバル山など、豊かな見どころが提示されました。

日本での生活面においては、朝7時起床・夜12時就寝という規則正しい日課を紹介しつつ、来日当初の4か月間に抱いていた言語や文化の違いに対する強い不安を吐露しました。しかし、教員やクラスメイト、先輩方の手厚いサポートを受ける中で徐々に緊張がほぐれ、安心して学習に取り組めるようになったと振り返ります。

慣れない環境下での日々の体験をすべて「新しい発見と学び」として捉え直し、異文化での経験が自身の精神的な成長につながったと分析しました。最初は不安から始まった留学生活であったものの、温かく支えてくれた周囲の人々や長野での生活に対し、深甚なる感謝の意を示して発表を締めくくりました。

■ ソワンさん（カンボジア）

ソワンさんは、母国カンボジアの自然環境や歴史的遺産についての発表を行いました。雨期には琵琶湖の20倍の面積に拡大するトンレサップ湖や、春分・秋分に中央塔の真上から太陽が昇る構造を持つ世界遺産アンコール・ワット、伝統料理のアモックなどを紹介しました。プレゼンテーション内では建物の写真を用いたクイズ（「この建物は私の家ではなく省庁です」）を盛り込み、聴衆の関心を惹きつける工夫が見られました。

本校での学生生活においては、香港への海外研修をはじめ、冬のスキー研修、春のお花見、夏祭りといった四季折々のイベントに意欲的に参加した様子が報告されました。餅つきや流しそうめん、すいか割りといった日本の伝統文化体験や、タイ・カナダからの留学生との交流などを通じ、日本人学生や他の留学生と多様な関係性を構築したことが示されました。

高専生活で得た最も価値ある成果として、「絶え間ないイベント」「かけがえのない思い

出」「一生続く友情」の3点を挙げ、多角的な学びと交流の機会を提供してくれた本校への感謝の言葉で発表を結びました。

■ ルトゥフィさん（マレーシア）

2022年に本校3年生へ編入し、現在は専攻科に所属するルトゥフィさんは、5年間の在学期間中における実地研修旅行と専門分野での取り組みについて報告しました。研修旅行では、おやき作りや吹きガラス体験などの伝統工芸を通じて日本のモノづくり精神に触れたほか、専門に関連する黒部ダム見学や上高地での散策を通じ、日本の土木技術や自然の美しさを学んだ経緯が語られました。

専門分野としては、富山および熊本で開催された土木学会での学会発表、自作の船で挑んだコンクリートカヌー大会（進水時に沈没したエピソードを含む）、地元のゼネコン企業における4か月間のインターンシップといった具体的な実績を提示しました。これらの経験を通して、土木工学の専門知識のみならず、幅広い交流と自己成長を実感したと述べています。

在学中、周囲から一度も差別されることなく親切的な支援を受け続けた環境へ深い謝意を表すとともに、本校で培った知識と経験を活かし、今春より日本の企業にて活躍していくという力強い抱負が語られました。

小林雅樹支部長挨拶

令和8年度長野高専後援会長野支部長を務めます小林雅樹です。早いものであっという間に後援会5年目を迎えました。残り1年、支部をとりまとめる立場となりましたが、皆様のご支援、ご協力のもとなんとか務めていきたいと考えていますので宜しくお願いいたします。

支部長の務めは大きく2つあると考えています。1つは支部活動の推進、もう1つは後援会本会と支部との繋ぎ役です。後援会本会は既に2回の理事会を開催し、6月末の総会では本年度の活動計画と予算が承認されて活動を開始しております。その中から長野支部に関係する情報を共有させていただきます。

-
- 1 諸物価高騰に伴い後援会費を値上げさせていただきました。学生の活動に必要な費用なのでご理解をお願いいたします。
 - 2 上水支部（信濃町、飯綱町）から会員不足による支部合併の申し入れがありました。正式な決定は年末以降になりますが、その際は宜しくをお願いいたします。
 - 3 9月20日にロボコン関東信越地区予選が長野高専主管で開催されます（会場：ビッグハット）。皆様の応援を宜しくをお願いいたします。
 - 4 令和11（2029）年度、令和12（2030）年度の本会会長候補者が当番支部から選出されました。急遽長野支部で選出を依頼される、ということは無い予定です。

※令和10（2028）年度が長野支部の藤澤紀子さんが会長職予定となっております。

次に支部活動に目を向けますと、この後の総会でもご審議いただきますが、本日の総会以降に主たる行事が開催される計画となっております。ご存じのとおり長野支部は最大規模の人数を抱えておりますが、多すぎる故に「役員は誰かがやってくれるだろう」という空気感があることも事実です。特に1、2年生に関しては支部活動の中心になって頂いている評議員の人数が少なく、今後の支部活動を維持していくためにはもう少し増員が必要と考えております。本日も来場の会員の皆様には評議員としての支部活動への参加を是非ご一考いただければと思います。

支部活動はできるだけ大勢の方に準備協力して頂き、できるだけ大勢の方に参加して頂くことで良いサイクルで廻っていくと思います。本日も総会の後には、先生方からの学校近況のお話、海外留学生の特別講演を予定しております。学校・学生の情報を得る貴重な機会としていただければと思います。この後が皆様にとって有意義な時間になることを祈念して、まとめませんが支部長挨拶とさせていただきます。



令和8年度役員（左から）

【会計補】柳澤 春利

【会計】大小田 一仁

【支部長】小林 雅樹

【副支部長】金澤 彰

【庶務】島田 恭孝

【庶務補】上本 忍

★一年間、よろしくお願いします★

編集後記

今年度も多くの方のご協力のもと、長野支部総会の編集作業も終わることができました。懇親会では先生方や保護者の方々との良い交流の機会となりました。来年の2月には学年別懇談会が長野工業高等専門学校にて行われます。各学年の先生方や保護者と接する良い機会となりますので多くの保護者の方々にお越しいただけると幸いです。今後も長野工業高等専門学校の後援会活動へのご参加及びご協力をお願いいたします。

編集委員

古城ちさと 倉島寛 塚田秀明 小山恵美子 山崎美芳